

三苦社協だより 校区社会協だより

発行所
三苦校区
社会福祉協議会
事務局
三苦公民館
TEL 606-4511
社会福祉法人 福岡コロニー
TEL 962-0764

ふれあいネットワーク 同意書用紙の改正

高齢者や障がいのある人への見守り、声かけは、平成18年度から、見守りの同意書を社会福祉協議会会長に出した人を対象に行われてきました。

その後、冷蔵庫に保管する「安心カード」の普及や、「見守りマップ」が活用されてくると共に、同意書を出していない人で、生活状況が気になる人が増えてきました。

規約改正を行い、平成28年4月から、同意書用紙を次のように改正いたしました。詳しくは、民生委員にお尋ね下さい。



三苦校区ふれあいネットワーク同意書

三苦校区社会福祉協議会 会長 様

※上の欄はあなたを見守るうえで必要としている基本的な内容です。情報提供をお願いします。

ふりがな				住所	東区三苦 丁目
氏名				電話	(自宅) (携帯)
生年月日 (年齢)	<input type="checkbox"/> 明治 年	<input type="checkbox"/> 大正 月	<input type="checkbox"/> 昭和 日		
世帯状況	<input type="checkbox"/> ひとり暮らし		<input type="checkbox"/> 高齢者夫婦世帯		<input type="checkbox"/> 家族と同居
同居者	続柄	氏名(年齢)	日中の連絡先(勤務先・携帯など)		
緊急連絡先	続柄	氏名(別居家族など)	連絡先(住所・電話番号など)		

※ここからの欄は見守り活動の参考になる内容です。あなたが書ける範囲で記入してください。

友人など	氏名	連絡先(住所・電話番号など)
かかりつけ	病 院 名	電 話 番 号
ケアマネ	事業所名	氏名
介護保険サービス利用内容	サービス種別	事業所名 連絡先 担当者

※あなたに関する情報は、ふれあいネットワークや地域福祉活動に活用させていただきます。

三苦の歩道に 点字ブロック!

三苦は、安心安全の町を目指しています。交通についても今のところ、大きな事故はありません。しかし、歩道には、一枚の点字ブロックもありませんでした。三苦校区自治協議会と交通安全推進委員会のご尽力で、28年3月、パークウェイ沿いの歩道敷か所に点字ブロックが設置されました。

この歩道は、かつて、三苦在住の視覚障がい者が白杖を使って毎日不安そうに歩いていました。横断歩道ではなく車道を横断する姿を見て心配する人もいました。校区ふれあい

三苦2丁目目では、モテル実施した「住民安心メール」は、住民への情報発信に有効であることから、27年10月に三苦校区全体に導入されました。

発信内容は、町内・校区の行事案内、防犯・防災の啓発などの広報連絡です。



メール登録会& 携帯電話・スマホ使い方教室

最近では、大雪による餅つき大会延期や、雨で松林下枝刈り作業の延期など、突然の日程変更の連絡に重宝しています。

年配者の中には、携帯電話・スマホの使い方やメール登録が分からない方もいて、それを福岡工業大学の学生

ボランティアが、何度も優しく丁寧に教えてくれました。

市・区社協や東区役所、地元大学等の協力で実現できました。計2回実施で参加者は60名でした。

三苦には、夜間でも使用できる公衆電話がなくなり、携帯電話・

平成27年度 賛助会員加入状況

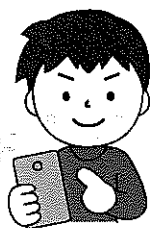
賛助会員募集の結果を、ご報告致します。ご協力ありがとうございました。今後とも「三苦校区社会福祉協議会」にご支援をお願い申し上げます。

326,500円の50%額163,250円が、平成28年度予算として三苦校区へ還元されますので、次の事業費の一部として活用させていただきます。

- ・ほのほのサロン
- ・子どもの育成支援事業
- ・校区文化事業
- ・ボランティア他支援事業

町 名	口 数		金 額
	法人(団体)	個 人	
1 丁目		41口	20,500円
2 丁目		153口	76,500円
3 丁目	法人1口	145口	82,500円
4 丁目	団体3口		30,000円
5 丁目	団体5口		50,000円
6・7 丁目		134口	67,000円
口数合計	法人1口 団体8口	473口	
	金 額		326,500円

※法人(団体)1口10,000円・個人1口500円



ボランティアが、何度も優しく丁寧に教えてくれました。

市・区社協や東区役所、地元大学等の協力で実現できました。計2回実施で参加者は60名でした。

三苦には、夜間でも使用できる公衆電話がなくなり、携帯電話・

第4回 みんなが安心して暮らせる町 三苦 福祉座談会

— 目配り 気配り 安心プラン —

平成28年1月30日

地域包括ケアシステムの継続を！

東区地域保健福祉課 岩崎 玲子

三苦校区では、平成25年度に「高齢者地域支援モデル事業」に取り組みたいと決まりました。校区の行動目標として「三苦校区保健福祉のまちづくりプラン」を三苦の皆さんと作ってまいりました。

このプランは、皆さんの豊かな発想で「三苦校区目配り気配り安心プラン」というプラン名になり、キャッチフレーズは、公募で「みんなが安心して暮らせる町三苦」に決定いたしました。

第3回の高齢者地域支援会議では、プランの内容を皆で楽しくワークショップをしながら健康づくり・介護予防の集いの場③見守り活動の3つのテーマに絞って考えてきました。

第4回の高齢者地域支援会議では、校区内の福祉施設・事業所の方々にも参加していただき、プランを実現するための企画書づくりを町内ごとに分かれて行いました。活発な議論を経て、6つの夢の企画書が誕生しました。

アンケートには「みんなが話し合うことの大切さ」を実感し、会議の継続を望む声が多くありました。

来年度以降は、企画書を実行に移し、年に1回は高

「みんなが安心して暮らせる町三苦」に

三苦校区自治協議会
会長 飯田 信義

今日の日本にとって急進する超高齢社会に対応するための施策を考えねばならないことは、焦眉の急です。このことは、我が三苦校区においても同じことで、この高齢化の波は決して押しとどめることができません。

幸いなことに三苦校区は、平成26年2月に、高齢者を支える仕組みづくりについて考える「地域包括ケアシステム」のモデル校区となりました。

「地域で暮らし続けるために」
みんなの家 三苦駅前 藤本 雅子

慣れ親しんだ地域で暮らし続けたいという思いは皆様の願いではないでしょうか。「自宅で暮らし続けたい」との思いをかなえるために、みんなの家ではそれぞれの事情に合わせて、通い・訪問・泊まりを組み合わせた生活を支援しています。それでも支えきれなくなった時のために、グループホームと有料老人ホームが同じ建物の中にあります。「介護は終わりが見えませんが、頑張らなくなった時に、任せられる場所がある」と思うだけで心が軽くなります。たとえ入所を決めても「こなら地域の中で暮らし続けることが出来ます。」との言葉を家族から頂いたこともあります。幸い三

苦地区では、他に先駆けて地域で暮らし続けるための様々な試みが行われ始めています。見守りの体制も整ってまいりました。認知症になっても介護が必要になっても、近隣の方の理解と見守る目があれば地域で暮らし続けることは可能だと思えます。地域の取り組み方で今後の暮らしが大きく変わると言っても過言ではないと思います。

みんなの家も開所から5年がたち、地域の皆様の一員としてやっとお役にたてるようになってきました。「みんなが安心して暮らせる町三苦」が実現できるように、皆が協力することにより良い未来を開きましょう。



事業所から三苦へお助け情報

- 和白雪松園……多目的ホール、テントの提供。
- 長雲荘……業務用かき氷機、綿菓子機の提供。福祉人材派遣。
- みんなの家三苦駅前……地域交流室(定員10人)の提供。福祉人材派遣。
- ハビネス三苦……地域カフェに協力。
- P&M訪問看護……リハビリテーション、福祉人材派遣。
- やまと更生センター……知的障がい者福祉に関する講師派遣。
- めだか作業所……施設休所日の部屋(定員20人)の提供。
- 循環生活研究所……堆肥化講話。
- 福臨銀行美和台支店……振り込み詐欺防止などのセミナー。
- 西日本福祉……多目的ルーム提供、ドライパー付き送迎バス提供、終活セミナーなどの講演。

※詳しくは、事業所にお問い合わせ下さい。

夢の企画書

1丁目

●健康づくりの企画書
目的) 健康づくり・仲間づくりなど
対象) 子どもから高齢者
主体) 地域のみんな
時期) 週1回は畑に出よう
場所) 1丁目の畑、三苦浜中央公園、空き地
内容) ウォーキング、野菜作り、堆肥作り
NPO循環生活研: 畑・堆肥作りの指導
天真会: 栄養に関する講話
効果) 野菜を食べて交流→つながりができる
収穫の喜び→認知症予防

2丁目A

●校区認知症サポーター誕生の企画書
目的) 高齢者の徘徊事故防止を実践する
対象) 中学生以上の住民
主体) 校区自治協・町内会
時期) 平成28年度7月・11月
場所) 公民館
内容) 「認知症サポーター養成講座」を開催
行政・社協等に協力依頼
効果) 老若男女認知症に対する知識を広める
世代間交流の活性化が期待できる

6・7丁目

●世代間交流の企画書
目的) より多くの人を巻き込み交流の場を作る
対象) 子どもから高齢者までみんな
主体) 町内会・老人クラブ・小学校・育みネット
時期) いつでも
場所) 集会所・小学校・三苦浜中央公園
内容) 日曜参観、餅つき、昔遊び伝承、海岸で砂像づくり、キャンドルナイトなど

2丁目B

●世代間交流「寄せ集まれカフェ」の企画書
目的) 町内住民が顔見知りになる
対象) 子どもから高齢者までみんな
主体) 町内会
時期) 桜の時期、行事の少ない時期(2・6月)
場所) 集会所・和白雪松園
内容) パザールや模擬店で高齢者の得意な料理を披露したり子どもたちと交流する

3丁目

●災害対策・訓練の企画書
目的) 地域住民の安心安全
対象) 子どもから高齢者までみんな
主体) 町内会
時期) 夏休み
場所) 集会所・公民館・小学校
内容) 災害時生活支援(炊き出し)、非常用発電機の使用、避難訓練など
効果) 住民同士の交流が生まれ、絆が深まり安心して暮らせる

4・5丁目

●「カフェひだまり」充実の企画書
目的) 三世代交流、閉じこもり防止など
対象) 子どもから高齢者
主体) 友愛クラブ婦人部、民生委員
時期) 第3木曜日
場所) 集会所
内容) PR強化: のぼり旗・看板作成、ポスターを事業所等に提示
脳トレ: 漬物、ジャム教室
環境改善: 集会所玄関スロープ
効果) 健康管理、交流、楽しく昼食

「三苦校区目配り気配り安心プラン」自治協 副会長 下川 京子

2年前、地域包括ケアシステムのモデル事業を、三苦校区が受けられる事になりました。私たちの町づくりは、今現在の住みやすい町をどう継続させて、超高齢社会を迎えていくのが課題でした。その中で、地域でできる高齢者支援を考える福祉座談会が4回行われました。最初の話し合いから、参加させて頂きましたが、参加者1人ひとり、真剣に取り組みされていて、とても熱の入った討論会でした。たくさんの方の意見や、豊富なアイデアが生まれ、皆様が望まれる町づくりの集約が出来たように思います。

これからは、私たちみんな、プランに基づいて確認しあいながら、進めていけたらよいと思います。今出来る事を実行に移す行動力で、私自身も様々な交流事業に参加させて頂きたいと思えます。

他、グループの「夢の企画書」もアイデア満載で、三苦校区は、みんなの知恵が集まって、さらに素敵なおまちになっていくことと信じています。

日頃、小学校の役割を「子どもの教育の場」という見方でとらえています。今日の座談会では、それに加え、「地域の交流の場」という見方で考えることもでき、小学校の果たす役割はまだまだあるのだと気づかされました。

地域の皆さん、小学校に世代間交流を楽しみにいらっしやいませんか? きっと子ども達が、元気を分けてくれるに違いありませんから。

健康づくりの企画書(認知症) 予備に取組もう

見守り活動を強化しよう

みんなが安心して暮らせる町 三苦

「夢の企画書づくり」に参加して 三苦小学校 校長 田中 貴美世

私たちのグループでは、三苦小学校は交流の場としてふさわしいという意見が出たので、本校の「餅つき集会」や「餅つき」など特色ある行事を紹介しました。また、PTAや地域の団体が、小学校で「三苦キャンドルナイト」や「育みネット」などの催しを行っていることを紹介されました。

企画書が出来上がったので、学校行事などをもっと多くの方々に知っていただき、参加者を増やす工夫をすれば、「夢の企画書」を実現できるのではないかと感じました。

他のグループの「夢の企画書」もアイデア満載で、三苦校区は、みんなの知恵が集まって、さらに素敵なおまちになっていくことと信じています。

家族介護者交流会を 初開催

平成27年10月29日、三苦公民館で家族を介護する人のための、家族介護者交流会を開催しました。

介護は重労働です。寝たきりの人を起こしたり、移動の介助をする時は介護者の腰に負担がかかり、腰痛などを抱えこんでまいります。

介護のプロである「みんなの家三苦駅前」の職員から、腰を痛めないためのアドバイスを受け、コツを教えてもらいました。また便利な介護用品の紹介もありました。日々進歩していることに驚きました。

また、「認知症の人と家族の会福岡県支部世話人」の西田勝樹講師から、介護経験者としてのお話を聞きました。認知症の奥様を介護された西田さん。歯

三苦3丁目住民交流会を 開催

平成27年3月22日、1・3丁目集会所で住民交流会を町内にあるデイサービス「ハピネス三苦」の協力を得て開催しました。

職員に講師として、介護保険の利用の仕方を使い易く話していただき、同所で行っている介護予防体操をしました。同所の施設見学では、青森ヒバの浴室が芳香を放っていました。

弁当の時間は、おしゃべりと笑顔の時間。10年前の福岡県西方沖地震の思い出話も出ました。

参加者は54名、町内でもあまり外出されない方や、三丁目以外の方も来られました。アン

磨き、入浴、化粧、服装など日常生活で起きた事を「なぜ妻はそういう行動をしたのか」想定し、認知症の人にも理由があること、思いやりを忘れずに介護することが大切だと教えていただきました。

徘徊時に一緒に探してくれた近所や地域の方、また、老人クラブの仲間などから声をかけられたり、理解してもらったことが嬉しかったという話は、とても印象的でした。

昼食は、天真会(博多老人ホーム・長壽荘・微笑園)の配達弁当でした。高齢者の栄養・味覚を考慮し作られた弁当で、「こんなに美味しいとは思わなかった。」「お肉も野菜もたっぷりでお腹いっぱい。」とみなさん大満足でした。食事が終わると福祉用具を体験したり、施設やいきいきセンターの職員に疑問点を聞いたりと交流を行いました。

アンケートでは、介護保険のことを聞きたい、福祉施設を見学したい、介護者同士で集まりたいなどの意見がありました。

ケートでは、「身近にこんな良い施設があることを知り心強く思った。」「もっと開催して欲しい。」などと好評でした。



近所で助け合い帰る様子

みんながつながる地域カフェ 「ひだまり」と「みどまカフェ」

平成27年5月から、4・5丁目集会所と三苦公民館で月に一度、無料のカフェがボランティアの手で開かれています。

住み慣れた三苦で誰もが安心して暮らし続けていくためには、住民同士の絆や支え合いが必要です。26年に校区の皆さんに地域に欲しいものをたずねたところ、一番多かったのはカフェの開設でした。(27年3月発行社協だより16号)

カフェでは、お茶やコーヒーを飲みながら参加者が自由におしゃべりします。近くの老人施設の人達もやってきます。

「ひだまり」では、20〜30人、「みどまカフェ」では、70人位の来客があります。

コーヒーなどの飲み物は無料ですが、募金箱が置いてあり、次回へつなぐ資金となっています。



ひだまり (カフェ)

参加者が自由に書くことが出来るノートには、次のようなことが書かれています。(一部抜粋)

- ・カフェは季節感があり、いろいろなアイデアが楽しめる。
- ・久しぶりに故郷に帰った気がする。
- ・コーヒーと菓子がおいしい。

28年3月7日に、福岡での会議を終えたあとプチ施設見学でインドネシアから研究者、研修者の方30名がカフェに来られました。カフェの現状と三苦宮緒おたすけ隊の話をしました。一行は、七段ひな飾り3基の前でお抹茶

茶を楽しまれ、日本文化を喜ばれていました。最後に、リーダーの先導で参加者全員で、輪になって歌いながら、インドネシアのダンスを楽しみました。



みどまカフェ インドネシアとの国際交流

香典返し

故永吉 百重様
故堺 正志様
故堀内 トシエ様

ご遺族から本協議会に、香典返しとして、ご寄付がありました。厚くお礼申し上げ、三苦校区社会福祉協議会で有意義に活用させていただきます。

合掌

編集後記

「社協だより」17号をお届け致します。発行にあたり、ご協力いただきました皆様方に心からお礼を申し上げます。

今後とも、よりよい「社協だより」作りをめざし、皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。

事務局 三苦公民館
TEL 六〇六一四五一